

# 県水だより

1975年10月28日

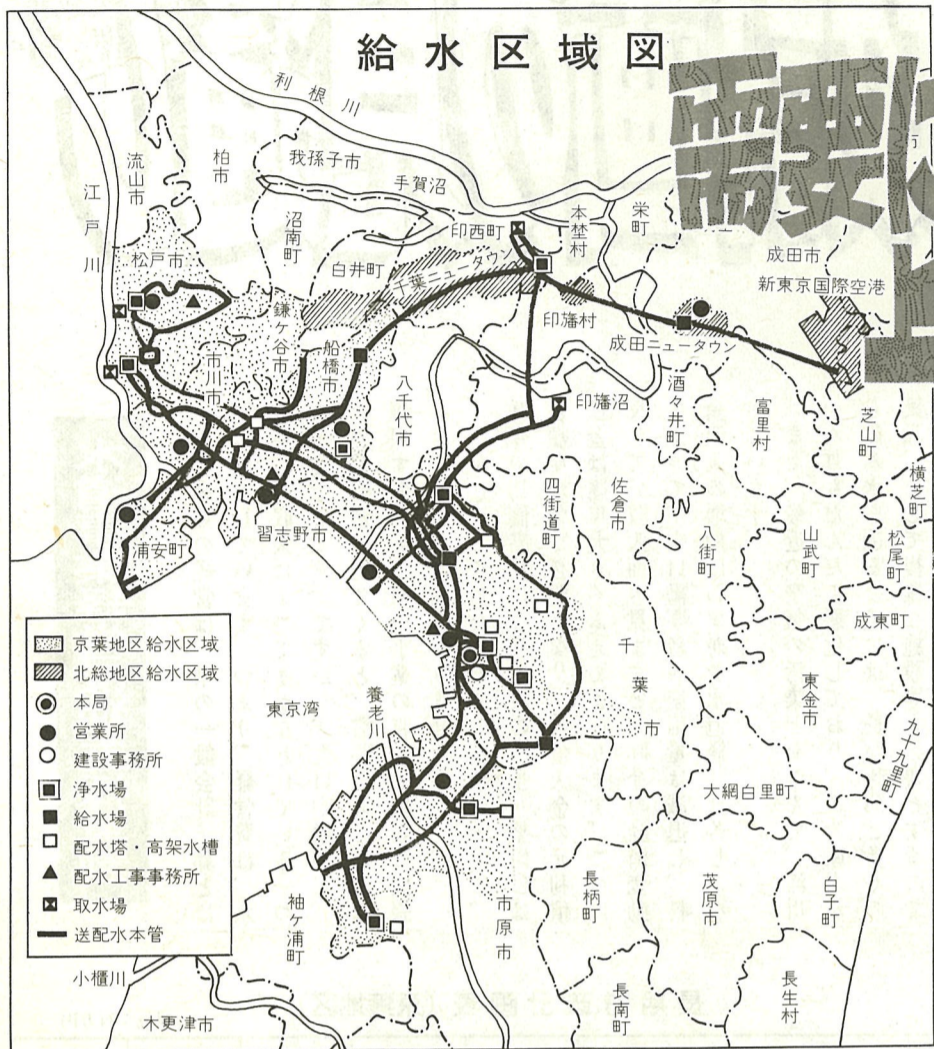
第20号

発行 千葉市長洲1-9-1

千葉県水道局

TEL 0472 (23) 4424

印刷 千葉日報社出版局



## 需要に追われる県営水道 上昇する給水コスト

### ふえ続ける水の使用量

水道は、私たちの生活にとって欠くことのできないものであります。県営水道の給水量は給水人口の増加により急増し、県水道局ではその水道が断水することのないよう、拡張事業を続け、上水の供給に日夜努力しております。一方水道事業の台所は、たいへん苦しく、オイルショック以降の急激な建設費の上昇、拡張工事のための借入金元利償還金の増加等により給水コストは上昇し、経営を一層苦しめております。

そこで今回は、水道事業の現状と見とおしを明らかにし、利用者の皆様の深いご理解とご協力を賜わり、私たちにとって大切な「県民の水」を守り育てて行きたいと思っております。

私たちが水道は、昭和十一年千葉市の一部に給水を始めてから、はやくも三十九年近くになります。この間、東京都の隣接県として都市化、工業化による急激な人口増加に伴い、ふえ続ける水の需要に際し、過去三回にわたる水道施設の拡張工事を行なって利用者の水の確保に努めてまいりました。その結果、昭和五十年三月末では給水人口百七十一万人、一日給水能力六十六万立方メートルという全国有数の大規模な水道となりました。

しかしながら、急激な人口の増加は、多くの施設の拡充を今後とも余儀なくされております。

#### 「あすの水」確保

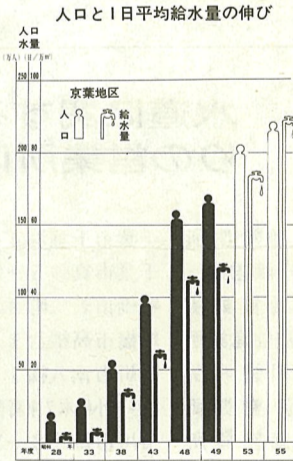
現在、県営水道は、江戸川、利根川（印旛沼）に水源の大部分を求めており、江戸川から取水する栗山系統、古ヶ崎系統、印旛沼から取水する印旛沼系統、利根川から取水する北総系統に大別されます。

栗山系統、古ヶ崎系統では栗山、古ヶ崎両浄水場から、印旛沼系統では柏井浄水場から、また北総系統では北総浄水場から私たちの家庭へ給水されています。しかし、急激な人口の増加はもはや、これらの浄水場だけでは限界にきております。

#### 水を「造る」ための施設の拡張

水道使用量の増加に対処し、円滑な給水を確保するため、施設の拡張が必要です。県営水道は、過去三回にわたって拡張を行なってきましたが、さらに現在、第四次拡張事業を実施しております。

第四次拡張事業は目標年度を昭和五十五年とし、計画人口二百三十七万五千人、計画給水量百三十五万立方メートルとして進めてまいりましたが、昨今の経済変動及び県の人口抑制策に伴う人口増加の落ちこみから、昭和五十五年での計画給水人口二百二十五万人、一日最大給水量



#### 今夏の日最大給水量 六十七万立方メートル

水道の使用量は文化のパロメーターといわれています。生活様式の近代化などにより、一般家庭一人当り使用量は一日百八十リットル、総給水量を給水人口で割った一人当り使用量は一日二百七十リットルに達し、本年夏季には、一

#### 水を「配る」ための施設の整備

造られた水は、各家庭へ配られます。この水を配る水道管（これを配水管と呼んでいます）は、給水開始以来順次布設されてきて、その延長は四千キロメートルに達し、給水区域を網の目のように走っています。しかし、住宅の建設が急速に進むにつれ、一部高台地区では水圧低下、出水不良といった現象が生じてきます。また、もうすでに寿命がきて取り替えるなければ赤い水の発生や破裂、漏水の原因となる可能性のある配水管は四十キロメートルもあり、さらに地震に対する備えや激増する交通量の震動などを考えますと、材質や継目などの構造の強度のものを取り替える必要があります。

このため、二百五十億円の資金を投入して配水管の拡充、整備を行なうことになっております。

#### 水を「取る」ためには 水資源開発が必要

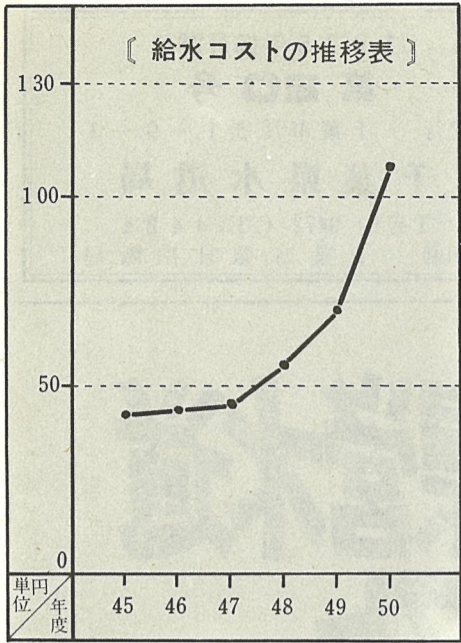
私たちの水道は、さきに申し上げたようにその大部分は江戸川や利根川にその水源を求めてきました。しかし、自然の流れだけでは、利用者への水を確保することは困難となり、これ以上取水するためにはダムを建設して水をもとから造り出さなければなりません。

現在、利根川の開発は、建設省水資源開発公団の手で進められており、昭和五十年までに利根川河口堰、川治ダム、八ッ場ダム、草木ダム房総導水路、思川開発、霞ヶ浦開発等によって毎秒百三十四立方メートル開発する計画（利根川水系における水資源開発基本計画II利根フルプラン）を樹立しておりますが、これに対して完成したのは利根川河口堰の毎秒二十二・五立方メートルのみであり、工事が始まっているのは川治ダム、草木ダム、房総導水路のみであります。

このような、ダム建設は、莫大な費用（川治ダムの場合は、毎秒一立方メートル当り約三十億円、総事業費約五百億円）がかかることも水源地域に住んでおられる方々の御協力を願わなければならないこと、ダムの適地が少なくなっていること等、非常に困難なものになってきておりますので、水を使うすべての人が、水は有限であることを認識して、上手に、ムダなく使用したいものです。



日最大給水量は六十七万立方メートルを記録しました。これは県庁舎（一杯分約九万二千立方メートル）の七杯分にあたります。こうした需要がこのまま推移しますと昭和五十五年の水需要は一日最大百二十二万二千立方メートルとなりこれを十年前の昭和四十年とと比較しますと五倍になります。



# 長期財政計画の見通し

## 水道事業経営は独立採算制

水道事業の経営は、県の一般会計予算とは別に独立しています。つまり、経営費は、水道料金の収入によってまかなわれている一つの企業なのです。ですから、人口が増加し、水の需要が増えてくると、需要に応じた水を確保するため、水道事業の収入で施設の拡張をしていかなければなりません。

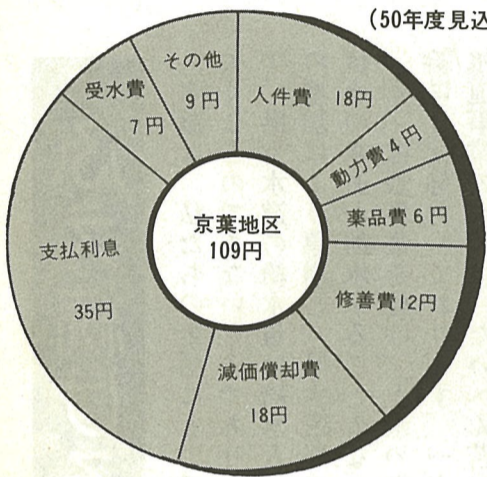
しかし、こうしたしくみのなかにあって、昨今の物価高騰により施設の拡張、整備には多額の資金が必要となり、この借入金と元利償還金は逐年大きくふえてまいります。これに反して、収入面を見ますと、昨今の経済変動によって、大口需要者の使用量は減退し、料金収入の増加はわずかで水道経営は苦しくなっています。

また、最近の空気の汚染とならんで、河川の水質もだんだん悪化しており、この原水から飲み水を作るまでには、長い時間と多くの薬品、そして複雑な施設等を必要とするので水の給水コストもおおのずから大きく変動いたしております。

なお、毎年春季には印旛沼の原水の悪化により、上水の悪臭問題が生じており、皆様に大変ご迷惑をおかけしておりますが、オゾン発生装置などの建設により、これが改善に努力いたしているとあります。

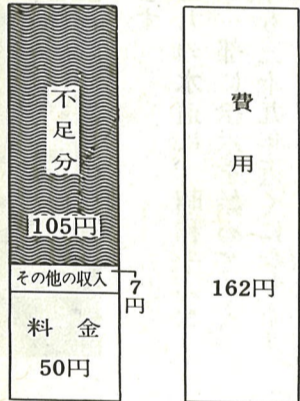
### 1立方メートルあたりの給水コスト

(50年度見込)



### 財政計画による1立方メートルあたりの費用収入

(昭和51年4月～56年3月の平均)



昭和四十九年度では、一立方メートルあたりの水の給水コストは七十円もかかっています。これを平均五十円で供給販売しております。ちなみに、昭和五十年年度での給水コストは百九円(円グラフ参照)、五年後の五十五年では、実に百七十一円と大幅にコストが高騰することが予想されます。

## 一立方メートルの給水コスト約百九円

### 長期財政計画表(京葉地区)

(単位:百万元)

項目	年度	50	51	52	53	54	55	計
収入	料 金	7,662	8,530	9,633	10,681	11,764	12,824	61,094
	企 業 債	24,949	28,310	33,490	23,230	19,950	14,910	144,839
	そ の 他	2,387	2,413	2,020	1,479	1,392	1,458	11,149
計		34,998	39,253	45,143	35,390	33,106	29,192	217,082
支出	経 営 費	8,494	10,514	12,246	14,042	16,773	20,361	82,430
	元 利 償 還 金	6,647	9,329	11,726	14,874	17,929	20,763	81,268
	建 設 事 業 費	26,687	31,860	37,656	26,151	22,869	17,746	162,969
計		41,828	51,703	61,628	55,067	57,571	58,870	326,667
差引過不足額	△	6,830	12,450	16,485	19,677	24,465	29,678	109,585
累積資金過不足額	※	(△551) 7,381	△ 19,831	△ 36,316	△ 55,993	△ 80,458	△ 110,136	△ 110,136

注 ※ (△551)は49年度末累積資金不足額

## 水道に関するお問合せは、最寄りの営業所にご連絡ください。

- |        |                |              |               |
|--------|----------------|--------------|---------------|
| 千葉営業所  | 千葉市千葉港4-3      | (41) 2121(代) | 千葉市東南部        |
| 西千葉営業所 | 千葉市真砂5-20      | (78) 4141(代) | 千葉市西北部        |
| 船橋営業所  | 船橋市若松町2-2-3    | (33) 2511(代) | 船橋市南部・習志野市の一部 |
| 船橋北営業所 | 船橋市高根台1-5-1    | (65) 9131(代) | 船橋市北部・鎌ヶ谷市    |
| 市川営業所  | 市川市南八幡1-10-15  | (33) 1515(代) | 市川市           |
| 松戸営業所  | 松戸市小根本7東葛合同庁舎内 | (61) 2123(代) | 松戸市           |
| 葛南営業所  | 市川市新井3-15-5    | (57) 1196(代) | 市川市(旧行徳地区)浦安町 |
| 市原営業所  | 市原市五所1445      | (41) 1361(代) | 市原市           |
| 成田営業所  | 成田市加良部3-2      | (27) 2231(代) | 成田市の一部        |

## 料金収入をうわまわる元利償還金の返済

そこで、さらに財政計画による収入及び支出の内容を細かく見ると、元利償還金(八百十二億六千八百万円)が大きな比重をしめるようになってきました。利息の支払は、施設の建設のために借り入れた企業債に対する利息です。

また、六年間の水道料金の収入額は、六十億九千四百万円、全額元利償還金に充当して、二百一億七千四百万円不足することになり、借金の返済に追われていることがわかります。

## 五十五年度末では一千百億円の累積資金不足

いままで申し上げたように、水道事業をとりまく環境は著しく変化しておりますが、こうした状況に対応すべき今後五年間の財政の見通しを策定いたしましたところ上表のとおりであり、昭和五十五年度末には、約一千億余円にのぼる累積資金不足が見込まれます。

## 経営改善に努力

このような財政事情にかんがみ水道局では現在、料金計算、給与計算、財務会計の一部計算などの各種事務の機械化、料金徴収を省くための口座振替制度の促進、検針集金制度の改善、水道センターの設置、漏水防止の積極的推進、職員増の抑制等、各種経費の節減をはかり、経営の効率化、近代化に努めてまいりましたが、さらに今後ともより一層経営の改善に努力いたします。

## 国への要望

水道は国民生活に欠かすことのできない社会的基盤でありますので、私たちは国に対し次のような事項を強く要望しております。

- ①水道法を改正し、国の責務と負担を明確にすること。
- ②現在の国庫補助率を引上げ、補助対象範囲を拡大すること。
- ③企業債については、起債枠を拡大し、政府資金の増大をはかり、利率を引き下げるとともに、償還期間を延長すること。

## 安定した水の供給に全力

以上、水道事業の経営の現状と将来の見通しについてみてきましたが、水道事業をとりまく環境は著しく変化し、経営状態は極度に悪化することが予想されますので、現在、財政の健全化の方策を「千葉県水道事業運営審議会」に諮問し、検討を願っています。

水道事業は、水道法に定められており、県民の方々に清浄にして豊富、低廉な水を供給することを目標にしており、今後の水道事業の運営にあたっては、経営の改善、経費の節減を図り、効率的運営に努めるとともに、安定供給に全力を傾注する覚悟であります。

県民の皆様のご協力ご支援をお願いいたします。